

どく 富山の毒のあるへび

2018年9月

富山にいる8種のへびの内、毒のあるへびはニホンマムシとヤマカガシです。特徴を知り、咬まれないようにしましょう。

■ ニホンマムシ

ニホンマムシは全長40～65cmで、胴に黒っぽい丸い模様があります(ないものもいる)。富山では平地でほとんど見かけず、山地の林道脇の草むらや農耕地の草地、水辺で時々見かけます。夜行性でカエルやネズミなどを食べて生活しています。眼と口の間には赤外線を感じる窪みがあるため、夜でも動物が発する熱を感じることができます。上顎の前に毒牙があり、ちょっと咬まれても毒が注入されます。

■ ヤマカガシ

ヤマカガシは、富山ではアオダイショウ、シマへびとともによく見かけます。全長は70～150cm。胴に赤と黒の模様があり(はっきりしないものもある)、あごの部分が黄色く、幼蛇は首にある帯状の黄色い模様が目立ちます。富山の平地では水田地帯でたまに見かけますが主に山地にすんでいます。昼間活動し、カエルや小魚を食べています。

毒牙は上顎の奥にあるため、深く咬まれると傷口から毒が入ります。首の皮膚の内側にも毒腺があり、破れると毒が飛び散ります。この毒は皮膚に毒のあるヒキガエル類を食べると蓄えられることが知られています。(南部久男)



<上>マムシ成体(道路で)。<下左>土手の草むらで。うしろにかくれる穴がある。<下右>水辺でカエルをねらっている。



<上>ヤマカガシ成体(道路で)。<上右>幼蛇の頭部(黄色い模様)。<下左>木に登り、モリアオガエルを探す。<下右>水辺でカエルを探す。

今月のかぐのぎもん：へびはどうしてよく舌を出しているの？
(答えは当館ホームページをご覧ください。)